平成 26 年度(第 58 回)
岩手県教育研究発表会資料

復興教育分科会

「いわての復興教育」副読本の活用

平成２７年２月１２日

北上市立黒沢尻西小学校

Ⅰ　学校教育目標と復興教育目標の位置づけ

平成 26 年度　　黒沢尻西小学校教育目標と復興教育目標

教育目標

国際社会に生きる創造的実践人の育成

ともにはばたこう　！

仲間とともに伸びようとする子ども

友だちのよさ、　地域のよさを学び、絆を大切にする子ども

より高く

理想を掲げ自ら向上に努める子ども

より美しく

人間と自然を愛し情操豊かで品性のある子ども

よりたくましく

心身ともに健康でたくましい行動力のある子ども

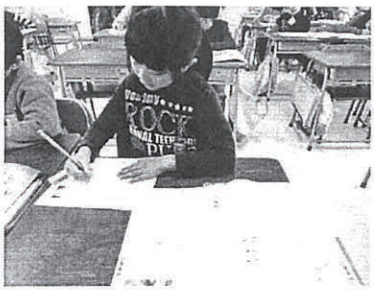
復興教育目標

「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育てる」

生命を尊重する心を育成する

他人に対する思いやりや助け合いの心を養う

災害から命を守るために必要な能力の向上を図る



Ⅱ　復興教育推進体制

復興教育推進担当を教務部に置き、校長・副校長・学年主任・生徒指導主事・研究主任・主任事務主査で組織する校内運営委員会を復興教育推進委員会と位置付け、組織的にその推進にあたる。各学期１回の推進委員会開催を基本とし、講演会や被災地訪問などの事業を行う場合はその都度推進委員会を実施し検討することとする。

Ⅲ　復興教育推進事業

（1）被災地小学校との交流と津波伝承館見学(11/21 実施)

復興教育推進事業の予算を活用し、被災地釜石市の鵜住居小学校を訪問する事業を行った。全校を代表し６年児童全員で直接訪問し交流を図った。さらに復興支援として全校児童によるさくら基金を募りさくらの苗木１０本分の基金を届けた。お互いの学校紹介を行い、児童相互の交流や歌等を通して直接ふれあうことができた。

また、大船渡津波伝承館の見学をし、「語り継ぐ東日本大震災と津波」と題して津波の映像も交えながら館長の齊藤さんから講話をいただいた。実際の映像や体験談を聞くことで、津波の怖さや被害の大きさ、地震が起きたときの対処などを身近な問題として捉えることができた。

（2）復興教育副読本の活用

① 授業実践　全ての学級で副読本を活用した授業実践。自分たちにできることを考えさせ、様々な活動に結び付ける。

② 年間指導計画の作成　副読本の低学年用、高学年用それぞれ、３年間を見通した指導計画の作成。

③ 復興タイムの設定　副読本を読む機会（復興タイム）の設定。

（3）「絆の日」の設定

東日本大震災が起きた２０１１年３月１１日を忘れないためにも、毎月１１日の月命日を「絆の日」とし、児童に命の大切さについて考えさせる。そのため、復興に関する明るいニュースを取り上げ、昼の放送で放送委員が紹介する。その際、復興ソング「花は咲く」の曲を流し、児童へ復興を意識するきっかけとする。また、復興掲示コーナーを設置し、復興に関わる記事や取り組みの掲示を行う。

（4）地域で育む福祉教育推進モデル事業

夏休み中（８月４日・お盆に向けての清掃）、冬休み前（１１月３０日・年末に向けての清掃）に、６年生が学区に住む一人暮らしのお年寄りや体の不自由な方の家庭を訪問し、掃除を行う。地域住民との世代間交流を深め、子どもたちが地域のよさを知り、人の温かさを感じ取ることを目的としている。

（5）防災教育

４月（避難経路確認・地震発生を想定）、８月（不審者を想定）、１１月（不意に起こる災害を想定）の年３回の避難訓練を通しながら、災害時の避難の仕方や自分の命を守るための心構えを養う。１１月の避難訓練では北上消防署の協力の下、４年・６年児童対象に煙体験を行い、万が一に備えた行動について実体験させている。

Ⅳ　復興教育副読本活用について

平成２６年５月にいわての復興教育３つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」を育てることをねらいとして作成された復興教育副読本が配布され、２学期より本校が副読本活用のための指導強化校に指定された。復興教育副読本を効果的に活用し、復興教育の充実を図るために、副読本の活用に関わり、本校では「授業実践」「年間指導計画の作成」「復興タイムの設定」の３点を重点とし、２学期間副読本の効果的活用を図ってきた。３つの重点については下記の通りである。

授業実践

全ての学級で副読本を活用した実践例を蓄積し、自分たちにできることを考えさせたり、行事等を行う上での動機づけとしたりしながら、様々な活動にいかす。

また、副読本の内容そのものが活動するための手引き書になっていることから様々な資料や材料を準備しながら体験的活動を実践していく。

年間指導計画の作成

教科での活用：生活科・社会科・理科・家庭科

領域での活用：道徳の時間や特別活動の時間、総合的な学習の時間

それぞれの教科・領域のかかわりを明らかにするために年間指導計画を作成し、学年相互の系統性も踏まえながら３年間を見通したかたちで指導の充実を図る。

復興タイムの設定

復興教育副読本に親しむために、毎週金曜日の朝読書の時間を活用し、副読本の読書時間を確保する。教師も一緒に読む。（低学年用・高学年用どちらも）

副読本を常に目に付くところ、手の届くところに置き、身近に備えておく。（教室の棚、児童机わきのおどうぐ袋等）

児童自ら復興教育副読本に書いている内容について様々な教科や場面で知識として活用できるようにしていくことをねらいとする。

Ⅴ　活用の実際

(1)授業実践　副読本の学習を動機づけとし、様々な活動へと生かしていく。

実践例１

6年	人々をつないだ歌声	中心価値	関連価値
高学年副読本		かかわる ⑪ボランティア	いきる ⑤やり抜く強さ
Ｐ３０～３１			

1　目標

不来方高校音楽部の自主的な被災地訪問を通し、歌に込められた思いを理解し、自分から進んでボランティア活動を実践しようとする心情を育てる。

2　学習内容

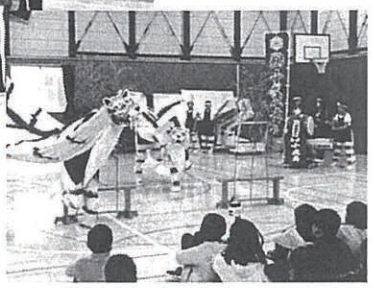
・不来方高校音楽部の被災地訪問の理由

・不来方高校音楽部のボランティア活動の取り組み

3　教科・領域との関連

道徳「わたしたちの小さな駅」勤労社会奉仕

総合的な学習の時間「わたしたちにできること」



4　関連資料等

・不来方高等学校ＨＰ

・岩手県立不来方高等学校音楽部ＯＧ・ＯＢ会ＨＰ

・復興庁ＨＰ

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・釜石市の被災状況を思い出す。	○インターネットで調べた釜石市の様子はどうでしたか。 ・想像できない悲惨な状況だ。	・当時の悲惨な様子を理解させる。
展開	・「人々をつないだ歌声」の活動内容について知る。	○なぜ、不来方高校音楽部は何度も被災地へ歌いに出かけたのでしょう。 ・震災前、釜石市でコンサートを開き、震災後の釜石市の子どもたちが気になっていたから。 ・歌声で心を癒したいから。 ・釜石市に住んでいる人たちに元気と歌の素晴らしさを届けたいから。 ・お年寄りの方々とのふれあいを大切にしたいから。	・人々の役に立つこと、人々に希望を与えたいという気持ちがあったことに気付かせる。 ・写真を活用し、活動の様子が児童にとってどういう事なのかを分からせる。
	・鵜住居小学校との交流で、私たちにできることは何かを考える。	○鵜住居小学校との交流で、私たちにできることは何がありますか。 ・学校紹介をしたい。 ・校歌を歌いたい。 ・一緒に「ふるさと」を歌いたい。 ・和ますためにお笑いをやりたい。 ・音楽に授業でやっている合奏を披露したい。 ・自己紹介をしたい。 ・何か必要なものを届けたい。 ・さくら基金を全校で集めて届けたい。	・言葉だけでなく、具体的な活動内容を明らかにさせたい。

まとめ	・今日の学習から学んだことや自分の考えをまとめる。	○今日の学習で、学んだことや自分の考えをまとめましょう。 ・鵜住居小学校との交流を有意義にするために私たちにできることを考えることができた。 ・東日本大震災を忘れない、助け合う、あきらめない心をもつ。	・東日本大震災の復興に、私たちにできることは何かを、一人ひとり考えさせ、実行させる。

6　評価

・他の人や地域社会に役立つことを考え、自分から進んで実践しようとする。

7　考察

本校卒業生も在籍し、より身近である不来方高校音楽部の活躍する姿を副読本を通じて紹介することができ、自分たちにも何かできるのではないかという気持ちを持たせるための非常に良い刺激的な材料となった。復興教育推進事業による被災地小学校（釜石市立鵜住居小学校）訪問をするための動機づけとして活用することができた。

交流の内容についても、児童から真っ先に出た内容は歌うことであった。歌を通しての人と人とのつながりの大切さ、どんな言葉よりも勇気を与えてくれる歌の素晴らしさを児童は感じ取ったようである。

また、何か形あるもので交流の証にしたいという思いから、６年生が中心となり、本校全校児童に「さくら基金」を募りさくらの苗木１０本分の基金を届け、鵜住居小学校校庭に桜の苗木を植えてもらうという案も生まれた。北上市のシンボルともいえる桜の木を通して、本校とのつながりを身近に感じてもらうことができ、長きにわたって交流を深めていくための証になってほしいという願いがこめられている。

交流会の内容はお互いの学校紹介を行い、児童相互の交流や歌等を通して直接ふれあうことができた。鵜住居小学校の児童からは虎舞を披露してもらい、被災地の児童の元気や勇気に直接触れることができた。

鵜住居小学校訪問の様子や合わせて訪問した津波伝承館で学んできたことについて、全校の前で発表する機会を設定し、写真等も紹介しながら全校児童に被災地の様子を伝えることができた。また、グループによる被災地訪問の様子を詳しく知ってもらうために新聞を作成し、全校児童に発信することができた。

「被災地訪問の様子を伝える発表会と学習内容をまとめた新聞」

実践例２

５年 高学年副読本 Ｐ５７	応急手当のしかた	中心価値	関連価値
		そなえる ㉑【身を守り、生き抜くための技能】	いきる① 【かけがえのない生命】 そなえる⑳ 【学校・家庭・地域での日頃の備え】

1　目標

けがの基本的な手当てなど、応急手当の基本的な方法を学ぶことで、地震や火災などの災害発生時や普段の生活においてけがをしたときに手当てができるようにする。

2　学習内容

意識や呼吸の確認の仕方、心臓マッサージやAEDの使い方

3　教科・領域との関連

保健　５年「けがの防止」

4　関連資料等

・北上消防署AED講習会資料

・「除細動までの時間と生存退院率」のグラフ

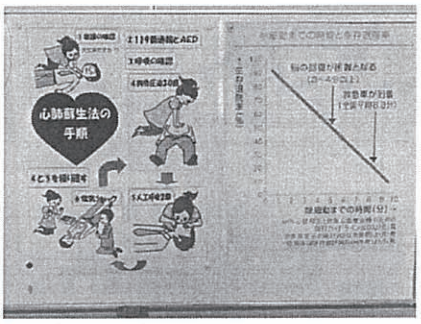
（ＡＨＡ心肺蘇生と救急心血管治療のための国際ガイドライン２０００より引用）

（救急蘇生法の統計２０１０（市民用）より引用）

（総務省消防庁統計資料（Ｈ２５年）より引用）

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・課題確認を確認する。 命を守る方法を知り、やってみよう。	○人が倒れているのを見付けたら、あなたはどうしますか。 ・大人を呼ぶ、１１９番する等 ○あなたが絶対助けたいという人を思い浮かべ、その人を助けるためにこの１時間があると思って学習しましょう。	なぜ自分達も心臓マッサージやAED を使うことができた方がいいのか、心配蘇生開始時間と救命率の関係のグラフから確認する。
展開	・教師の実演を見て、心配蘇生法の手順とポイントを知る。	○「誰か」ではなく必ず指名する（指さす）のはなぜだと思いますか。（曖昧な指示にせず、責任をもたせることを説明する。） ○体が濡れていたらどうしますか。（拭く。ＡＥＤの効果を下げないためであることを説明する。）等	・実演しながら資料に載っていないポイントについてなぜかを考えさせながら確認していく。（指名すること、濡れていたらふくこと、心臓マッサージの方法の詳細、人工呼吸は感染等の理由から必ずではないこと、AED使用方法の詳細等）
	・人が倒れているときの対処の仕方やAEDの使い方を体験する。	○３人１組で行います。１人は倒れている人を発見し、ＡＥＤと救急車の手配をし心臓マッサージをする人、１人はＡＥＤを持ってくる人、１人は救急車を呼ぶ人です。交代して行い、全員が全部の役をしましょう。	・全員に体験させる。単に機械(AED)を扱うのでなく、協力して人命救助に当たる疑似体験にするため、場面を想定し、役割分担・交代して常に何かの形で関わるようにさせる。
	・赤ちゃんなど小さい子の心配蘇生法について知る。大人との違いについて、教師が人形を使って説明する。	○大人と同じでいいと思いますか。 ・ダメだと思う。骨が折れる等	・小さい子は片手、指等で行うとよいこと、人工呼吸は軽くやらないと肺が破裂してしまうこと、しかしたとえ骨が折れても救命優先であること等を話す。

まとめ	・教師の話を聞く。 ・本時の感想をまとめる。		・万が一の時に臆せず動こうという意識をもたせるため、「間違っていたとしても、不十分だったとしても、骨を折ってしまっても、何もしないよりは絶対いい。大切な誰かの命を守りたい、助けたいという思いを行動に移せる人間になろう。」という話をする。

6　評価

・人の命を救うために自分にもできることがあること、それをするのとしないのでは救命率が大きく変わることを理解している。
・心肺蘇生法の手順やＡＥＤの使い方を理解している。
・誰かを助けたいという思いをもって、心肺蘇生法を行ったり、ＡＥＤを使ったりしている。

7　考察

副読本（応急手当のしかた）をもとに、ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の実践的体験学習を行った。訓練学習ということで、本物のＡＥＤではなく、講習会等で使用されている練習用ＡＥＤを活用することで安全に、そして繰り返し学習することができた。練習機については消防署の協力がなくてはできないものであるが、消防署はむしろどんどん貸し出すことで人の命が助かることなので全面的に協力したいということであった。貸し出す件数は非常に少ないということで、各学校での体験学習をさらに増やしていく必要性を感じた。

下記の児童の感想からも児童にとって貴重で有意義な学習の機会となった。大人でなくとも自分たちでも人の命を助けることができることを知り、できるだけ多くの人の命を助けたいという気持ちが備わった。さらにはＡＥＤの知識を広めることで、家庭や地域への広がりも期待できるものと考える。

児童の感想

・胸骨圧迫の正しいやり方が分かってよかった。もし倒れている人がいたら習ったことを生かしたい。
・応急手当てが意外に難しいことが分かった。人形を使って学習したが人形でも助けたいと感じた。
・これから、身の回りで人が倒れてしまった時には、進んで胸骨圧迫やＡＥＤを使って人を救いたい。
・胸骨圧迫をするときには、真横に立膝をつき、全身でまっすぐ押すとよいことが分かった。
・心臓マッサージの回数やリズム、正しいやり方が分かった。家族など大事な人が倒れていた時などに、自分の力で救えるかもしれないと思い、うれしくなった。
・人工呼吸をするときには気道確保をしないと意味がないということを初めって知った。
・人の命は自分たちでも助けられるということが分かった。
・初めてＡＥＤのやり方を教わったが、簡単なことですぐに人を助けられると感じた。
・応急手当の手順がよく分かった。人のために今日学習したことを活用したい。
・ＡＥＤの使い方がよく分かり、すぐ使えそうだ。でも、実際の場面ではたぶんできないと思うので、何回もこういう学習会に参加していつでもどこでもできるようにしたい。
・応急手当でほんの何分かの間に人の命が助かる確率が急激に変わることを知り、実際に応急手当てができるようにしたいと強く感じた。
・応急手当てが１分遅れるごとに１０パーセント生存率が減ることが分かった。応急手当の大切さがよく分かった。
・人が倒れていたら勇気を出して、今日学習したように助けたい。
・肋骨圧迫をするときには、結構力が必要なので、力をつけたいと思った。

実践例３

１年	ショートくん練をやってみよう	中心価値	関連価値
低学年副読本		そなえる	そなえる
Ｐ５９		㉑【身を守り，生き抜くための技能】	⑲【災害時における情報の収集・活用・伝達】

1　目標

地震速報を聞いたときに、どのような行動をとったらよいかを理解し、素早い行動がとえるようにする。

2　学習内容

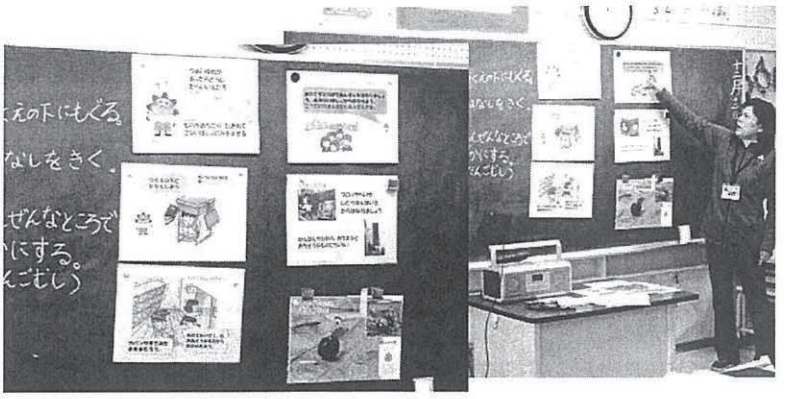
・地震の際の避難訓練の意義とルール

・ショート訓練の方法

3　教科・領域との関連

体育　「俊敏な行動の仕方」

特別活動　学校行事「避難訓練」



4　関連資料等

・気象庁「津波に備える」（緊急地震速報を使った地震津波訓練）

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・地震の避難訓練を思い出す。	○「ティロン　ティロン」この音は何の合図か知っていますか。 ・地震が起きた時の合図だ。	・「ティロン　ティロン」の音を実際に流し、地震への関心を高める。
展開	・「ショートくん練」の内容とルールを理解する。 ・ショートくん練を教室で行う。 ・教室以外の場所でも実際に行う。 ・自分たちの身の守り方について話し合う。	○「ショートくん練」って何だと思いますか。 ・「くん練」だから、避難訓練のことかな。 ○「ティロン　ティロン」の音を聞いたら、どうすればいいでしょう。 ・机の下にもぐる。 ○教室でやってみましょう。 ○図書室や音楽室にいた時は、どうしますか。 ・部屋の真ん中でしゃがむ。（ダンゴムシのポーズ） ○「ショートくん練」をやってみてどうでしたか。	・「ショートくん練」の意味を理解させる。 ・地震が起きた際に身を守るための大切な行動を考えさせる。 ・「ティロン　ティロン」の音を流し、実際にやってみる。 ・周りの状況に応じた避難の仕方を考えさせる。
まとめ	・地震が起きた時に大切なことについて話し合ってまとめる。	○地震が起きた時に大切なことは何でしょう。 ・放送や先生の話をよく聞く。 ・机の下や安全な所でダンゴムシのポーズをして静かにする。	・緊急地震速報が鳴った時の身の守り方をまとめる。

6　評価

・周りの状況に応じて、安全に身を守る方法について知り、自分から進んで実践しようとする。

7　考察

１年生の児童は純粋に素直に行動することから、普段のしっかりとした訓練の重要性を感じることができた。教室での身の守り方、特別教室での身の守り方、または、体育館や校庭、そして登下校途中に地震が起きた時の身の守り方など、具体的にどうしたらいいかを実際に体を動かして体験することができた。

年３回行われる全校での避難訓練でもその学習が生かされ、どの学年よりも素早く身を守り、次への避難の行動でも素早く移動できていた。

下記の児童のふりかえりカードの感想からも地震が起きた時の具体的な動きや自分の行動を振り返っての反省など、万が一の時の態度がしっかり養われていることが感じられる。

児童のふりかえりカード

「ショートくんれんをやってみよう」ふりかえりカード　黒西小児童

なまえ（　　）

○「ショートくんれん」をやってみて、どうでしたか。かんそうをかきましょう。

ほんとのじしんとおもってびくびくしましただけど、じぶんのみを、じょうずにまもれてよかったです。

○じしんがおきたときに、どんなことにきをつけたいですか。かいてみましょう。

○しゃべらないようにする。
○ほうそうを、よくきく。
○でんきのちかくにいかない。

「ショートくんれんをやってみよう」ふりかえりカード　黒西小児童

なまえ（　　）

○「ショートくんれん」をやってみて、どうでしたか。かんそうをかきましょう。

きょうショートくんれんをしましたやってみてちょっこわいとをもいました でもみをまもると本でいあたまをまもりました。本がないときは手でまもります。

○じしんがおきたときに、どんなことにきをつけたいですか。かいてみましょう。

○おちそうなものにはなるべくは
○なれる
○

「ショートくんれんをやってみよう」ふりかえりカード　黒西小児童

なまえ（　　）

○「ショートくんれん」をやってみて、どうでしたか。かんそうをかきましょう。

きょうは、しほんとうのじしんかと、おもったけど、まんなかにみんなであつまったからだいじょうぶだったけど、ほんとうのじしんだったらこわいとおもいます。

○じしんがおきたときに、どんなことにきをつけたいですか。かいてみましょう。

○しずかにしゃべらない。
○たいいくかんにいたときはまんなかにあつまる。
○つくえの下にかくれる。

「ショートくんれんをやってみよう」ふりかえりカード　黒西小児童

なまえ（　　）

○「ショートくんれん」をやってみて、どうでしたか。かんそうをかきましょう。

もしよしつのところにつくえがいちったけどいらないときは、だんごむしみたいにまるまる。けどじしんがきたときにはすぐにつくえのしたにかくれる。

○じしんがおきたときに、どんなことにきをつけたいですか。かいてみましょう。

○つくえのしたにすぐかくれたときには
○ほんであたまをまもりたい。
○つくえがなかったらいすにすぐかくれる。

（2）年間指導計画の作成

・副読本の低学年用、高学年用それぞれ、３年間を見通した指導計画を作成した。
・教科での活用、「道徳の時間」・「総合的な学習の時間」・「特別活動」での各領域での活用、教育活動全体を通じての活用ができるような指導計画を作成した。（Ｐ１０～１１参照）

「いきる かかわる そなえる」指導計画＊黒沢尻西小学校（低学年用／1～3年）

教育的価値	No.	題名	具体の21項目との対応	指導学年 1	2	3	教科・領域との関連 学年	教科領域	内容
メッセージ		ひょっこりひょうたん島		○					
いきる 生命の大切さ・心のあり方・心身の健康	1	生きのこったイトヨ	① かけがえのない生命			○	3 1・2	理科 道徳	身近な自然の観察 3－(2)自然愛・環境保全，4－(7)郷土愛
	2	家族のみんなに よろこんでもらったよ！	③ 価値ある自分	○			1・2 1・2	生活 道徳	(2)家庭と生活 1－(2)希望・勇気、不撓不屈、4－(3)家族愛
	3	「ゆめ先生」がつたえたいこと	④ 夢や希望の大切さ		○		全 1・2	特活 道徳	(2)－ア希望や目標をもって生きる態度 1－(2)勤勉・努力
	4	走れ，かまいしキッチンカー	⑤ やり抜く強さ			○	3 1・2	社総 道徳	地域の人々の生産や販売 「ぼくら地区たんけんたい」 1－(2)勤勉・努力，4－(5)郷土愛
	5	しぜんとともに	② 自然との共存		○		3 1・2	理科 道徳	身近な自然の観察 3－(1)生命尊重，4－(5)郷土愛
	6	はるかのひまわりロード	① かけがえのない生命			○	3 1・2	理総 道徳	昆虫と植物 「ぼくら地区たんけんたい」 3－(1)生命尊重
	7	つらいとき,かなしいとき，どうする？	⑥ 心の健康		○		全	特活	学級活動(2)－カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
	8	絵をかいてみよう	⑥ 心の健康	○			全 1・2	特活 図工	(2)－カ心身共に健康で安全な生活態度の形成 感じたことや想像したことから表したいことを見つけて表現すること
	9	友だちや家族と遊ぼう	⑦ 体の健康	○			1・2 1・2	体育 生活	体つくり運動 自然や物を使った遊び
かかわる 人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画	10	〈作文〉ありがとうおまわりさん	⑨ 仲間や地域の人々とのつながり	○			3 1・2	社会 道徳	災害及び事故の防止 2－(4)尊敬・感謝
	11	思いやりの心－友だち交流	⑩ 県内外や海外の人々とのつながり	○			1・2 1・2	生活 道徳	生活や出来事の交流 2－(3)友情・信頼，助け合い
	12	協力し合うって,楽しい	⑪ ボランティア			○	3 1・2	総合 道徳	「西地区のみなさんと」 4－(2)勤労
	13	「まけないぞう」がつなぐきずな	⑫ 自分と地域社会		○		1・2 1・2	生活 道徳	生活や出来事の交流 4－(5)郷土愛
	14	かえってきた「いらっしゃいませ」	⑭ 復旧・復興へのあゆみ			○	3 1・2	総合 道徳	「ぼくら地区たんけんたい」 4－(5)郷土愛
	15	〈作文〉今回の震災で感じたこと	⑧ 家族のきずな			○	1・2 1・2	生活 道徳	家庭と生活，自分の成長 4－(3)家族愛
	16	ひさいした犬をセラピードッグに育てる －国際セラピードッグ協会	⑪ ボランティア		○		全 1・2	特活 道徳	「ボランティア活動」 3－(2)自然愛・動植物愛護
	17	今度は自分たちが	⑩ 県内外や海外の人々とのつながり	○			全 全	特活 道徳	「ボランティア活動」 4－(5)郷土愛，4－(6)愛国心
	18	「ふるさと科」で町を元気に－大槌町の取り組み	⑬ 地域づくり			○	3 1・2	社会 道徳	地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事 4－(5)郷土愛
	19	四つの教え	⑧ 家族のきずな		○		1・2 1・2	生活 道徳	家庭と生活 3－(1)生命尊重
	20	防潮堤を見て学ぶ－宮古市田老	⑬ 地域づくり			○	3 3	社会 総合	災害及び事故の防止 「ぼくら地区たんけんたい」
	21	津波を乗り越えて－奥尻島	⑭ 復旧・復興へのあゆみ		○	○	3 3	社会 総合	災害及び事故の防止 「ぼくら地区たんけんたい」
	22	『論語』に親しもう	⑨ 仲間や地域の人々とのつながり		○		全 1・2	特活 道徳	学級活動(2)－ウ望ましい人間関係の形成 2－(2)思いやり・親切
そなえる 自然災害の理解・防災や安全	23	2011(平成23)年3月11日 東日本大震災	⑮ 東日本大震災津波の様子と被害の状況			○	3 1・2	総合 道徳	防災 3－(1)生命尊重
	24	岩手の主なさいがい	⑰ 自然災害の歴史		○		全 1・2	特活 道徳	学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成 3－(2)自然愛・動物愛護，4－(5)郷土愛
	25	地震のしくみとひがい	⑯ 自然災害発生のメカニズム	○			3 全	総合 特活	防災 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	26	津波のしくみとひがい	⑯ 自然災害発生のメカニズム		○		3 全	総合 特活	防災 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	27	火山ふん火のしくみとひがい	⑯ 自然災害発生のメカニズム			○	3 全	総合 特活	防災 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	28	台風のしくみとひがい	⑯ 自然災害発生のメカニズム			○	3 全	総合 特活	防災 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	29	急な大雨・かみなり・たつまき	⑯ 自然災害発生のメカニズム	○		○	3 全	理科 特活	太陽と地面の様子 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	30	大雪とそのひがい	⑯ 自然災害発生のメカニズム		○		3 全	総合 特活	防災 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	31	放射線をへらす活動 たらちねの会	㉑ 身を守り，生き抜くための技能			○	3 全	総合 特活	防災 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	32	みんなで，ぼうさい力を高めよう	⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え	○			3 全	社会 特活	災害や事故の防止 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	33	きん急地震速ほう	⑲ 災害時における情報の収集・活用・伝達		○		3	社会	災害や事故の防止
	34	ショートくん練をやってみよう	⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え	○			全 全	体育 特活	敏速な行動の仕方 学校行事 避難訓練
	35	そのとき,どうする？	⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え	○	○	○	1・2 全	生活 特活	安全な登下校，地域と生活 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	36	ライフラインって何？	⑱ 自然災害のライフラインへの影響			○	3	社会	飲料水，電気，ガスの確保 災害や事故の防止
	37	家族で地震にそなえましょう	⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え		○		全 3	特活 道徳	学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成 4－(3)家族愛，3－(1)生命尊重

「いきる かかわる そなえる」指導計画＊黒沢尻西小学校（高学年用／4～6年）

教育的価値	No.	題名	具体の21項目との対応	指導学年 4	5	6	教科・領域との関連 学年	教科領域	内容
メッセージ		雨ニモマケズ		○					
いきる 生命の大切さ・心のあり方・心身の健康	1	三陸鉄道のたたかい	⑤ やり抜く強さ	○			4 5・6	社会 道徳	交通網の様子 2－(5)尊敬・感謝，　4－(4)勤労・社会奉仕・公共心
	2	「もっこ」で弁当配達	③ 価値ある自分		○		5・6	道徳	1－(2)希望・勇気・不撓不屈，4－(3)役割と責任の自覚
	3	夢、勇気を持って一歩踏み出そう	④ 夢や希望の大切さ			○	5・6	特活 道徳	学級活動(2)－ア　希望や目標をもって生きる態度の形成 1－(2)希望・勇気・不撓不屈
	4	20キロ圏内から来たキティ	① かけがえのない生命	○			4 5・6	総合 道徳	「やさしい気持ちを届けよう」 2－(5)尊敬・感謝，3－(1)生命尊重
	5	海人の心	② 自然との共存		○		5 5・6	総合 道徳	「地球環境を大切に」 3－(3)敬虔
	6	1年間やり切った入浴支援	③ 価値ある自分			○	全 5・6	総合 道徳	「わたしたちにできることを」 4－(4)勤労・社会奉仕・公共心
	7	みんなのくらしがよくなるために	⑤ やり抜く強さ		○		5 5・6	社会 道徳	水産業 1－(2)希望・勇気・不撓不屈
	8	呼吸法で心のケア	⑥ 心の健康	○			全	体育	保健／心の健康
	9	「チャレンジデー」に挑戦　陸前高田市	⑦ 体の健康			○	全	総合 体育	「わたしたちにできることを」 体つくり運動：運動することの意義の必要性
	10	手軽な運動,ストレッチ	⑦ 体の健康		○		全	体育	体つくり運動：屋内・屋外での運動やストレッチの方法
	11	多くの命を救った防災無線	① かけがえのない生命		○		5 5・6	社会 道徳	情報の有効な活用，自然災害の防止 2－(5)尊敬・感謝，3－(1)生命尊重
かかわる 人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画	12	二人三脚二輪	⑨ 仲間や地域の人々とのつながり	○			5 5・6	社会 道徳	自然災害の防止 2－(5)尊敬・感謝，4－(5)家族愛
	13	〈作文〉次の日は倍に笑おう	⑧ 家族のきずな			○	5・6	道徳	2－(5)尊敬・感謝　　4－(5)家族愛
	14	強くなってください。そして笑顔でいてください	⑩ 県内外や海外の人々とのつながり			○	6 5・6	社会 道徳	国際協力 2－(5)　尊敬・感謝
	15	地域のみんなで助けあう	⑬ 地域づくり	○			4 5	総合 社会	「やさしい気持ちを届けよう」 自然災害の防止
	16	遠野に「まごころ」が集まった	⑪ ボランティア			○	全 5・6	総合 道徳	「ハウスクリーニング」 4－(4)勤労，社会奉仕，公共心
	17	人々をつないだ歌声	⑩ 県内外や海外の人々とのつながり	○			全 5・6	総合 道徳	「やさしい気持ちを届けよう」 2－(2)思いやり・親切
	18	まごころを運ぶバス	⑪ ボランティア		○		全 5・6	特活 道徳	「ボランティア活動」 2－(2)思いやり・親切，4－(4)勤労・社会奉仕・公共心
	19	町を元気にするために,高校生サミット	⑭ 復旧・復興へのあゆみ			○	5・6	総合 道徳	「わたしたちにできることを」 4－(7)郷土愛・愛国心
	20	未来のために－五つの提言	⑭ 復旧・復興へのあゆみ			○	全	特活	学級活動(2)－カ　心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	21	三人の絆	⑧ 家族のきずな	○			5・6	道徳	3－(1)生命尊重，4－(5)家族愛
	22	高校生が地域にかかわる	⑬ 地域づくり			○	5 5・6	社会 道徳	水産業 4－(7)郷土愛・愛国心
	23	世界がぜんたい幸福にならないうちは	⑫ 自分と地域社会		○		5・6	道徳	1－(5)創意・進取，　4－(3)役割と責任の自覚
そなえる 自然災害の理解・防災や安全	24	2011(平成23)年3月11日東日本大震災	⑮ 東日本大震災津内の様子と被害の状況	○			5・6	道徳	3－(1)生命尊重
	25	日本の主な災害	⑰ 自然災害の歴史			○	5・6 5・6	社理 道徳	自然災害の防止，　天気の変化，　土地のつくりの変化 3－(2)自然愛・環境保全
	26	地震のしくみと被害	⑯ 自然災害発生のメカニズム			○	6 全	理科 特活	土地のつくりと変化 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	27	津波のしくみと被害	⑯ 自然災害発生のメカニズム			○	6 全	理科 特活	土地のつくりと変化 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	28	火山噴火のしくみと被害	⑯ 自然災害発生のメカニズム			○	6 全	理科 特活	土地のつくりと変化 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	29	台風のしくみと被害	⑯ 自然災害発生のメカニズム		○		5 全	理科 特活	天気の変化 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	30	急な大雨・かみなり・たつ巻	⑯ 自然災害発生のメカニズム		○		5 全	理科 特活	天気の変化 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	31	大雪とその被害	⑯ 自然災害発生のメカニズム		○		5 全	理社 特活	天気の変化，国土の地形や気候の概要 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	32	正確な情報の発信・収集・判断	⑲ 災害時における情報の収集・活用・伝達		○		5	社会	わたしたちのくらしと情報
	33	緊急地震速報－ゆれが来る前に地震波をキャッチ！	⑲ 災害時における情報の収集・活用・伝達		○		5	社会	わたしたちのくらしと情報
	34	とっさの判断と行動－ぐらっときたら,こうしよう	㉑ 身を守り，生き抜くための技能	○			5 全	社会 特活	自然災害の防止 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	35	防災力を高めよう－ショート訓練のすすめ	⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え	○			全 5	特活 保健	「避難訓練」 けがの防止
	36	応急手当のしかた	㉑ 身を守り，生き抜くための技能		○		5	特活 保健	「AEDを使おう」 けがの防止
	37	そのとき,どうする？	⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え	○	○	○	全	総合 特活	「わたしたちにできることを」 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	38	大きな災害ではライフラインがとまる	⑱ 自然災害のライフラインへの影響	○			4 5	社会	飲料水，電気，ガスの確保 自然災害の防止
	39	家族会議を開こう－わが家はだいじょうぶ？	⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え	○			5 全	社会 特活	自然災害の防止 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	40	家族といっしょに防災マップをつくろう	⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え		○		5・6 全	社理 特活	自然災害の防止，流水の働き，天気の変化，土地のつくりと変化 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	41	地域の避難訓練に参加しよう	⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え	○			4・5 全	社会 特活	災害や事故の防止(4年)，自然災害の防止(5年) 学級活動(2)－カ心身ともに健康で安全な生活態度の育成

(3)「復興タイム」の設定

児童自ら復興教育副読本に書いている内容について様々な教科や場面で知識として活用できるようにしていくことをねらいとし、副読本を読む機会を設定した。（復興タイム）

・朝読書の時間（１５分間）に復興教育副読本を読む機会を設定している。（毎週金曜日）
・教師も低学年用・高学年用を全て読む。（朝読書の時間に児童と一緒に読んだり、時間を見つけたりして読む。）
・児童がいつでも手に取れるよう置き場所も工夫する。（教室の棚、児童机わきのおどうぐ袋等）

Ⅵ　成果と課題

（1）成果

・復興教育の様々な活動の動機づけとして、副読本の有効活用が図られた。
・実際に児童が被災地を訪問するための動機づけとして活用し、より身近な問題として復興の大切さを感じとり、「生命を尊重する心」「他人に対する思いやりや助け合いの心」「災害から命を守るために必要な能力」について理解、学習することができた。
・年間指導計画に基づき、復興教育副読本を活用することで「道徳の時間」・「総合的な学習の時間」・「特別活動」との関連を図りながら指導することができた。
・年間指導計画に基づき、全ての学級で副読本を活用した実践例を蓄積することで、系統性を踏まえた指導を心がけることができた。
・副読本を読む時間「復興タイム」を設定することで、児童も教師も復興について身近なものとしてとらえ、様々な活動や授業への効果的な活用が図られた。

（2）課題

・副読本を活用しての授業実践が２学期間という短い期間のため、どの学級も手探り状態からのスタートで十分な指導や補助資料の有効的な蓄積にはいたっていない。
・復興教育を通して「道徳の時間」・「総合的な学習の時間」・「特別活動」との相互の関連、充実を図り、学校全体として調和の取れた指導計画を作成していきたい。
・副読本を読む時間の中に、関連した児童用図書や資料なども準備・蓄積しながら、朝読書の時間を充実した時間にしていきたい。

【資料】実践事例集

1年 低学年副読本 P６～７	家族のみんなに よろこんでもらったよ！	中心価値 いきる ③価値ある自分	関連価値 かかわる ⑧家族のきずな

1　目標

生活科の学習で、家族のために自分ができる仕事を行うことを通して、家族の中における自分の存在を認め、自分の価値について考える。

2　学習内容

・ちなさんの家族への思い　　・家族の中の自分の役割

・家族の中で自分ができること

3　教科・領域との関連

生活　内容（２）「家庭と生活」

4　関連資料等

・学習指導要領小学校（生活）

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・自分は、家族の一員として、どんな役割をしているか考える。	○みんなは、お家でどんなお手伝いをしていますか。 ・食器運びをしている。 ・ご飯を作るお手伝いをしている。	・お手伝いという身近な話題に触れながら、家族の一員としての役割について考えられるようにする。
展開	・「おしごと大さくせん」への取り組みを発表する。	○お手伝いをして、家族が喜んでくれましたか。 ・喜んでくれた。 ・助かったって言ってくれた。 ・お風呂掃除をしたら、「気持ちよかった」と言ってくれた。	・家族に喜んでもらった経験などを出させることで、自分が果たせる役割について深く考えられるようにする。
		○お手伝いをして、どんな気持ちになりましたか。 ・ありがとうって言われてうれしかった。 ・毎日するのは大変だった。 ・頑張ったなと思った。	・お手伝いをした時の気持ちよさだけでなく大変さにも目を向けさせ、いつも家族のために働いている家の人への思いを深められるようにする。
	・ちなさんの「家族にこにこだいさくせん」について知り、家族へ感謝の手紙を書く。	○家族の誰に、どんな手紙を書きたいですか。 ・お母さんに、「毎日ご飯を作ってくれてありがとう」と書きたい。 ・お父さんに、「いつも一緒に遊んでくれてありがとう」と書きたい。	・支えてくれた家族を意識して表現させることで、感謝の気持ちを深められるようにする。
まとめ	・家族の一員としての自分を見つめる。	○家族の一員として、これからどんなことができそうですか。どんなことがしたいですか。 ・お掃除のお手伝いを続けたい。 ・お皿を運んだり、お箸を並べたりしたい。	・家族との関わりを見つめさせることで、どんな状況においても家族の支えがあることや、自分も家族の支えになっていることに気付けるようにする。

6　評価

・家族のために自分ができる仕事を行うことを通して、家族の中における自分の存在を認め、これから自分ができることについて考えている。（家族への手紙、冬休みの計画表）

2年 低学年副読本 Ｐ５８	きん急地震速ほう	中心価値	関連価値
		そなえる⑲ 災害時における情報の収集・活用・伝達	そなえる⑳ 学校・家庭・地域での日頃の備え そなえる㉑ 身を守り、生き抜くための技能

1　目標

震災津波の被害による教訓をもとにした情報の大切さを理解するとともに、情報を選択し判断して行動することができるようにする。

2　学習内容

・「きん急地震速ほう」や「その他の災害の情報」の存在
・「数秒から数１０秒」でできる行動
・情報を収集するための手段、情報を判断して行動することの大切さ

3　教科・領域との関連

社会　３・４年「災害や事故の防止」

4　関連資料等

・気象庁 HP「緊急地震速報を活用した訓練について」
・気象庁子ども用リーフレット「緊急地震速報って知ってる！？」

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・「きん急地震速ほう」の存在について知る。	○地震を知らせるときの音を聞いたことありますか。どんな気もちがしましたか。 ・こわい。 ・どきどきした。	・速報の目的や説明をする。
展開	・気象庁の HP からのビデオを見る。 ・緊急地震速報から揺れるまでの時間で何ができるか考え、実際に机に隠れてみる。 ・地震が起こることで、家族が連絡がとりにくいことを実感させる。	○緊急地震速報が出てから地震が来るまでの時間はどのくらいですか。 ・１３秒　・１８秒 ○この時間で命を守るために何ができますか。 ・机の下にかくれる。 ・上や横から倒れてくるものから身を守る。 ○地震が収まったらどのような行動をとりますか。 ・お家の人に連絡する。 ・お家の人と約束をしておく。	・地震が起こるしくみについてもふれ、基本的な事は知らせる。 ・数１０秒でできることが想像していたよりも多かったことを児童に実感させる。 ・災害伝言ダイヤル、携帯電話、メールや災害用伝言版が役立つことを知らせる。
まとめ	・災害時の情報の大切さについてまとめる。 ・感想をシートに書く。	○地震の時騒いだり、正しい情報が伝わらなかったらどんなことが起こりますか。 ・どう動いたらいいかわからない。 ・勝手な行動をする人が出てくる。	・「台風」「大雨」「津波」「高潮」「暴風」「土砂崩れ」などの警報についても触れる。

6　評価

・地震の仕組みや緊急地震速報の仕組みを知り、自ら身を守るための情報を判断していこうとする気持ちをもつことができたか。

2年	「まけないぞう」がつなぐきずな	中心価値	関連価値
低学年副読本		かかわる ⑬【自分と地域社会】	4－（5） 郷土愛
P26～27			

1　目標

阪神・淡路大震災後に神戸市の避難所で生まれた「まけないぞう」を作成する活動を通して、地域の人たちのつながりが、地域の復興への力となっていることについて考える。

2　学習内容

・「まけないぞう」を作成する意義

・地域の人たちの交流や協力

3　教科・領域との関連

1・2年　道徳　4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」

－（5）「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ」

4　関連資料等

・小学校道徳副読本　文溪堂　2年「どうぶつ森のおまつり」

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・地域の文化、自然、行事などの写真を見て話し合う。	○これから見せる写真は何でしょうか。 ○ほかに、わたしたちの地域には、どんなよい所や行事がありますか。	・地域の文化、自然、行事などの写真を提示して、自分たちの地域のよさに触れる。
展開	・「どうぶつ森のおまつり」を読んで話し合う。 	○真ん中広場へ出かけたモグラ兄弟は、どんな話をしながら歩きましたか。 ・早くお祭りにならないかな。 ・楽しみだな。 ○きつねやりすたちに会った後、もぐら兄弟はどんなことを考えたでしょう。 ・魚が食べたいな。 ・りすの飾り付けが早く見たいな。 ・お祭りのために準備をするなんてすごいな。 ○やぐらを組み立てているくま達や太鼓の練習をしているたぬきたちを見て、もぐら兄弟はどんなことを思ったでしょう。 ・お祭りが楽しみだ。 ・みんなのためにがんばってすごい。 ・どうぶつ森ってすてき。	・役割演技をさせることによって、もぐら兄弟の気持ちを考えさせる。 ・楽しいお祭りにするために準備をしている仲間と出会って、森のよさについて考え始めるもぐら兄弟の気持ちの変化に気づかせるようにする。 ・自分の郷土に対してより深い愛着をもった、もぐら兄弟の気持ちを考えさせる。（ワークシート）
まとめ	・いきるかかわるそなえるの「まけないぞう」がつなぐきずなを読む。 ・なぜ、タオルの「まけないぞう」を作るようになったかを考える。 ・「まけないぞう」を作る人たちの気持ちを考える。	○なぜ、神戸の人たちは、タオルの「まけないぞう」の作り方を教えるようになったのでしょう。 ・みんなの役に立ちたいから ・元気を出してほしいから ・負けないでがんばってほしいから ○岩手の人は「まけないぞう」をどんな気持ちで作っているのでしょう。 ・売れるといいな。 ・作ってみたら楽しい。 ・みんなと作れてうれしい。 ○自分たちの住んでる黒西で、大切にしている所	・地図と写真により、神戸の場所と阪神・淡路大震災の様子を知らせる。 ・「まけないぞう」を作る人たちの気持ちを考え、話し合うことにより、協力することの大切さにふれる。（ワークシート）

	（6）自分たちの住んでいる地域で、大切にしていることについて話し合う。	はどこですか。 ・小学校 ・詩歌の森公園 ・神社 ○地域の人たちは、何か協力していることはありませんか。 ・早朝作業をしています。 ・飾りをつける仕事を協力していました。	

6　評価

・郷土の文化や生活に親しみをもち、協力や交流をしていこうとする気持ちをもてたか。

児童の学習シート

「まけないぞう」がつなぐきずな

☆岩手の人たちは、「まけないぞう」をどんな気もちで作っているのでしょう。

黒西小児童

「まけないぞう」がつなぐきずな

☆岩手の人たちは、「まけないぞう」をどんな気もちで作っているのでしょう。

黒西小児童

「まけないぞう」がつなぐきずな

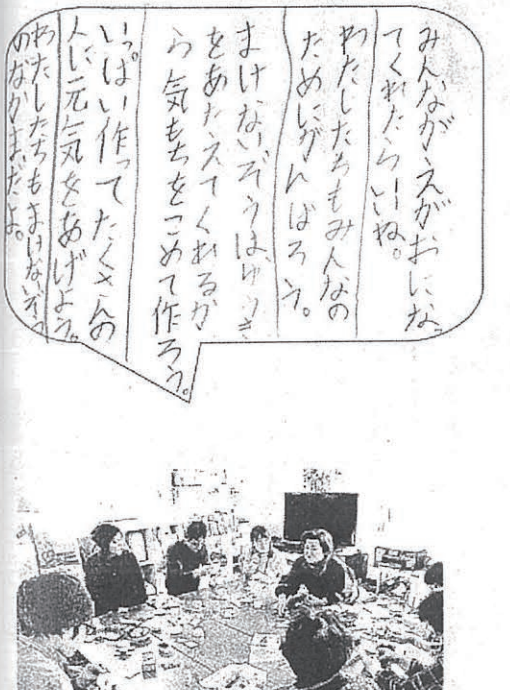
☆岩手の人たちは、「まけないぞう」をどんな気もちで作っているのでしょう。

黒西小児童

「まけないぞう」がつなぐきずな

☆岩手の人たちは、「まけないぞう」をどんな気もちで作っているのでしょう。

黒西小児童



3　年	そのとき、どうする？　みんなで考えよう！	中心価値	関連価値
低学年副読本		そなえる ⑳{学校・家庭・地域での日頃の備え}	そなえる ⑳{学校・家庭・地域での日頃の備え}
P　60			

1　目標

・あらゆる自然災害での危険を具体的に考え、あらゆる場面に対しての対処方法を考え、備えようとすることができる。

2　学習内容

・被災した児童の書いた作文から、その児童が身を守ることができた行いを見つける。
・あらゆる場面を想定しながら、その場での対処方法を考える。
・緊急時の連絡先や待機場所、待機時間について家庭で話し合う。

3　教科・領域との関連

特別活動　（2）カ　心身ともに健康で安全な生活態度の育成

4　関連資料等

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・被災した児童の作文を読み、その児童が命を守ることができた行動について考える。	○お母さんと約束したことを守って、友達の家に行ったこと。 ○先生に言われた通り、広くて何もない所に逃げたこと。 ○一人でも冷静に行動したこと。	
展開	・あらゆる場面を想定し、危険だと感じるものから、命を守る対処方法を考える。 	○学校の音楽室での地震 ・楽器から離れる。 ・動きがおさまるまで待つ ○給食時間中での地震 ・窓や蛍光灯から離れたところで頭を隠す。 ・机の下にかくれる。 ○帰り道での地震 ○帰り道での雷雨 ・塀や電柱、高い建物のそばから離れる。 ・木や建物から離れる。 ・屋内の場所に避難する。 ○一人で留守番中の地震 ・窓のそばや電気の下から離れる。 ・外の広い場所に逃げる。 ・棚や冷蔵庫の近くから離れる。 ○公園で遊んでいる時の地震 ・広くて何もない場所に逃げる。 ・建物の近くから離れる。	・危険は何かを考えられるようにする。 ・対処方法は具体的に考えられるようにする。
まとめ	・緊急時、一人の時の連絡先や待機場所について、家庭で相談してくることを確認する。 ・今日の学習の振り返り		・緊急時での約束事を決めておくと、万が一の時に役立つことを意識させる。

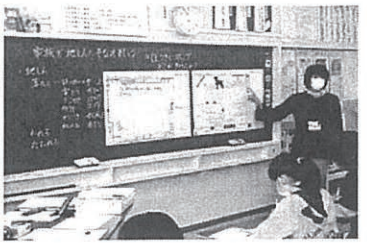
6　評価

・あらゆる場面での危険にはどのような物があるか考えることができたか。
・具体的に自分の身を守る方法を考えることができたか。

3　年 低学年副読本 Ｐ６４	家族で地震にそなえましょう	中心価値 そなえる ⑳（学校家庭地域での日頃の備え）	関連価値 そなえる ⑯（自然災害発生のメカニズム）

1　目標

自分の家の防災マップを作成することにより、地震が起きたときに予測される危険について考え、防災のための備えをしようとする心情を育てる。



2　学習内容

・教室で地震が起きたときに予測される危険について話し合う。
・自分の家（居間）の防災マップを作成し、危険箇所を探る。
・防災のために改善すべき点、災害時に備えて準備すべき物を確認する。

3　教科・領域との関連

学級活動　　（２）―カ　　心身ともに健康で安全な生活態度の育成
道徳　　４－（３）家族愛　　３―（１）生命尊重

4　関連資料等

ＮＨＫ「学ぼうＢＯＳＡＩ」おうちぼうさいマップ

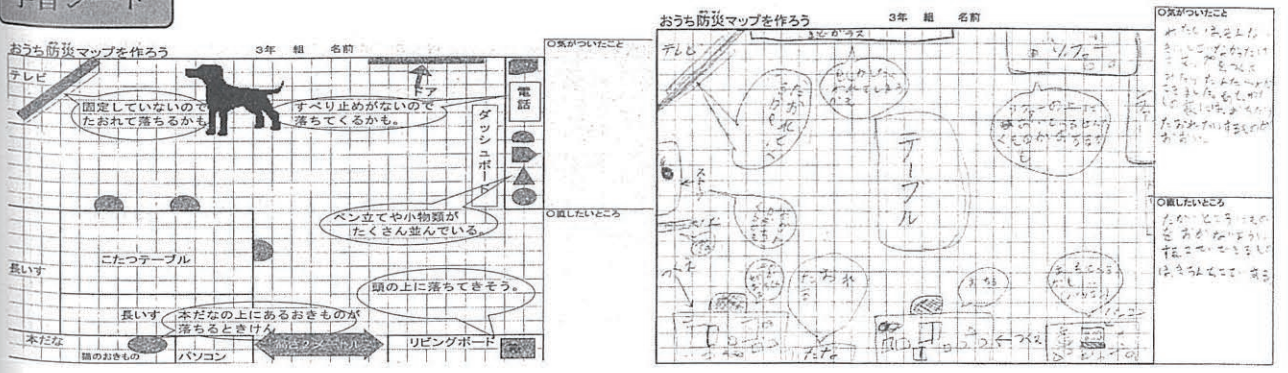
5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・地震が起きた時に予測される被害にはどんなものがあるか考える。	○地震が起きた時、どんな被害が考えられますか。 ・物が倒れる。落ちる。移動する。 ○教室ではどんな危険が考えられますか。 ・ロッカーから物が落ちる。	・教室の中で危険なところを探し、みんなで簡単な防災マップを作ることにより、防災マップの作り方を理解させる。
展開	・自分の家で家族が集まる場所（居間）の家具や置物がわかるようなマップを作り、危険箇所を探る。 ・自分の家で防災のために改善できることはないか考える。	○あなたの家の居間では、地震が起きた時どんなことが起きると予測されますか。 ・テレビが倒れる。物が落ちる。 ○安全に生活するために変えたいところはありますか。 ・物を固定する。	・「おうち防災マップ」の作り方を確認し、家具や物の配置が分かるような図を描かせ、危険箇所を考えさせる。 ・改善点をまとめ、家族で決めておくべき事柄や、備えておくべき物について確認する。
まとめ	・「三つのない」を確認し、ダンゴムシのポーズを練習する。 ・家族に伝えたいことを考え、おうち防災マップに書く。	○「三つのない」を言いましょう。 ・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない。 ○今日学んだことを、おうち防災マップに書き込み、おうちの方に伝えましょう。	・日頃から、非常時に備えて家族で約束事を決めたり、物の準備をしたりしようとする心構えをもたせる。

6　評価

・地震が起きたときに予測される危険について考え、家族とともに防災のための備えを実践しようとする。

学習シート



4年 高学年副読本 Ｐ３０～３１	人々をつないだ歌声	中心価値 かかわる ⑩県内外や海外の人々のつながり	関連価値 かかわる ⑪ボランティア

1　目標

音楽等によるボランティア活動を通して、苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に共感し、協力することや、困っている人を励ます大切さについて考える。

2　学習内容

・不来方高校音楽部の生徒の思い

・協力することや支援することの大切さ

3　教科・領域との関連

社会

火事を防ぎ、地震にそなえる

道徳

助け合って「不思議なぼくの気持ち」（文溪堂）

困っている人のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を養う。２－（２）親切

総合的な学習の時間

「やさしさ見つけた」介護老人施設訪問

4　関連資料等

・不来方高等学校ＨＰ

・岩手県立不来方高等学校音楽部ＯＧ・ＯＢ会ＨＰ

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・困っている人を励ましたり、助けたりした体験や経験について出し合う。	○困っている人を励ます、助けることをしたり、されたりしたことはありますか。 ・友達が落ち込んでいるときに声を掛けた。	・身近な経験や体験などについて具体的に考えさせる。
展開	・不来方高校音楽部や仙台市立八軒中学校合唱部の活動について知る。 ・２校のボランティア活動について話し合う。 ・他のボランティア活動について発表する。	○不来方高校音楽部の人たちは、全国のコンクールで金賞を受賞し、様々な場所で歌を披露しています。この映像はどこでしょう。 ・体育館の外、避難所、被災地 ○コンクールに出られなくなった八軒中学校合唱部の人たちは「あすという日が」を何度も歌っています。 ○なぜ歌い続けているのでしょう。 ・震災前に訪問した所がどうなっているか心配だった。 ・歌うことで被災者を勇気付けたい。 ○他にどんなボランティアがありますか ・スポーツを通じた交流	・映像資料を活用し、被災地で歌っていることが分かるように工夫する。 ・資料を読み、震災前からボランティア活動を行っていることにも着目させる。 ・自分達が音楽会で歌った時の気持を想起させる。 ・ＣＤの発売や海外での演奏会等、活動の広がりがあることも知らせる。 ・被災地での活動から、社会科で学んだ災害ボランティアに目を向けさせ、更に自分達も募金等を行っていることに気付かせ

		・被災地の片付け ・本の寄付、さくら募金等	る。
まとめ	・困っている人たちを励ますために、自分達ができることを考える。	○今、自分達ができるボランティア活動はどんなことですか。 ・手紙を書く ・歌を録音して送る ・赤い羽根共同募金 ・施設訪問 ・自分の身の回りの人を助ける。	・赤い羽根共同募金が、自分達の地域で活用されることを知らせ、被災した人々だけでなく、身近な人たちにおいても、困っている人がいたらどのように励ませばよいかを考えさせる。

6　評価

・他の人や地域社会に役立つことを考え、自分から進んで実践しようとする。

児童の学習シート

復興教育ワークシート　「人々をつないだ歌声」

四年　一組　名　黒西小児童

☆なぜ、不来方高校の音楽部は何度も被災地に出かけたのでしょうか。

つながりのきずがいとうけた人たちとこえて少しでもかいけたいと思ったからいろんなひとにわらってもらうために。

☆なぜ、八軒中学校の合唱部は、歌い続けたのでしょうか。

あすという日がもっていけるけんかをしてほしいからあすという日があることを信じてきぼうを忘れないで元気にすごしてほしいから。

☆困っている人たちを励ますとしたら、あなたはどんなことをしたいですか。

ぼくは手紙を書いたりいろんな物をおくり少しでもなにかがおきていてほしいったらうたいうえあいゆうきをつけたい手紙ではげましたい。

感想　いろんな高校の人たちがいっぱいあつまってみんなでいっぱいはげましたりきずなをつなぐことができたりいっぱいの歌声いろいろのうたをきいてみたいなとおもいました。

復興教育ワークシート　「人々をつないだ歌声」

四年　一組　名　黒西小児童

☆なぜ、不来方高校の音楽部は何度も被災地に出かけたのでしょうか。

一度歌をはげましをしても、まだ心配で気をちなんがいると思ったからです。

☆なぜ、八軒中学校の合唱部は、歌い続けたのでしょうか。

「あすという日がは被災者をはげますような歌詞だからそれを一生けんめい歌えば被災者がささえられるかもしれないと思ったからです。

☆困っている人たちを励ますとしたら、あなたはどんなことをしたいですか。

できるだけぼくに協力して困っている人をはげます歌やプレゼントを送りたいです。また何かお手伝いをしながら交流してあげたいです。

感想　動画をみると不来方高校の音楽部は被災地を訪れそして何度も同じ所で歌いつづけていたことがかかれそれは被災者をはげますために一生けんめいがんばっていたとおもいました。

復興教育ワークシート　「人々をつないだ歌声」

四年　一組　名　黒西小児童

☆なぜ、不来方高校の音楽部は何度も被災地に出かけたのでしょうか。

ぼくがにあったんたちにえがおになってほしいと思ったから。

☆なぜ、八軒中学校の合唱部は、歌い続けたのでしょうか。

うたにこめたことばを聞いてもらうためにうたいつづけたから。

☆困っている人たちを励ますとしたら、あなたはどんなことをしたいですか。

[illegible]

感想　ひがしにあった人たちに歌をこえてもはげましたりしたりしてやさしさがあってにがにあったメッセージをもらったりしたりしてよかったなあと思いました。

復興教育ワークシート　「人々をつないだ歌声」

四年　一組　名　黒西小児童

☆なぜ、不来方高校の音楽部は何度も被災地に出かけたのでしょうか。

もっとたくさんの家族や友達をなくした人たちをはげましてゆう気づけてあげるため。

☆なぜ、八軒中学校の合唱部は、歌い続けたのでしょうか。

がんばれあきらめないでという日がおるかぎりしあおきとよびましたっていうことをもっとみさいにあった人たちだけでも元気づけてあげるため。

☆困っている人たちを励ますとしたら、あなたはどんなことをしたいですか。

ぼくは、手紙を書いたり写真をとっておくったり歌をうたってあげてつぶやいている人をはげましたいです。

感想　ぼくもこのあたりに住んでいる人に歌っている高校生がすごいなと思いました。ぼくもこのあたりに住んでぼくも歌っていたらみんなたちを元気づけてあげたいなと。

復興教育ワークシート　「人々をつないだ歌声」

四年　一組　名　黒西小児童

☆なぜ、不来方高校の音楽部は何度も被災地に出かけたのでしょうか。

[illegible]をはげましたり

☆なぜ、八軒中学校の合唱部は、歌い続けたのでしょうか。

[illegible]

☆困っている人たちを励ますとしたら、あなたはどんなことをしたいですか。

[illegible]

感想　[illegible]

復興教育ワークシート　「人々をつないだ歌声」

四年　一組　名　黒西小児童

☆なぜ、不来方高校の音楽部は何度も被災地に出かけたのでしょうか。

[illegible]

☆なぜ、八軒中学校の合唱部は、歌い続けたのでしょうか。

[illegible]

☆困っている人たちを励ますとしたら、あなたはどんなことをしたいですか。

[illegible]

感想　[illegible]

復興教育ワークシート　「人々をつないだ歌声」

四年　一組　名　黒西小児童

☆なぜ、不来方高校の音楽部は何度も被災地に出かけたのでしょうか。

被災地に住んでいる人たちを元気づけていたりしていたりしていたりし

4年 高学年副読本 Ｐ４２～４３	2011(平成23)年３月11日 東日本大震災	中心価値 そなえる ⑮{東日本大震災津波の様子と被害の状況}	関連価値 いきる ⑤ {やりぬく強さ}

1　目標

２０１１年３月１１日に発生した東日本大震災における地震や津波の様子、被害の状況について理解する。

2　学習内容

・平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災の事実
・岩手県が大震災によって受けた被害の状況
・福島第一原子力発電所の事故が社会にもたらした影響

3　教科・領域との関連

道徳　生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする　３－（１）生命尊重

4　関連資料等

・復興を見つめて 陸前高田　YouTube
・東日本大震災　被災地から届いた復興への兆し YouTube

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・２０１１年３月１１日の大震災について想起する。	○東日本大震災の時を覚えていますか。その時、どんな被害がありましたか。 ・幼稚園の年長で、すごくゆれた。物がたくさん落ちて大変だった。停電があった。	・児童の家族や親戚等で亡くなった人がいる場合は、事前に内容について確認する。
展開	・副読本を読み、写真の様子を見ながら、被災の状況を確認する。 ・被災当時から復興までの経緯や人々の努力についての資料映像を見て、自分に何ができるか考える。	○写真から、どんな被害があったことがわかりますか。 ・家が壊れて流されている。 ・避難所では不便な生活を送っている。 ○被災者の人々は、震災後どのように立ち直ったのか、映像を見て考えましょう。 ○同じような災害が起きたとき、自分に何ができるか考えましょう。 ・電気がつかなかったら、暖房が使えないので、厚着をして布団などにくるまる。 ・水道が使えなくなったら、雨水や川の水で手や物などを洗う。	・副読本の写真を活用し、被害の大きさだけでなく、ボランティア活動の内容にも気付かせる。 ・復興が進む様子には、苦しくてもあきらめない精神を持ち続けている人々の気持ちがあることに気付かせたい。 ・困難に直面した際、自分に何ができるか具体的に考えさせる。(ワークシート)
まとめ	・写真や映像を見て、感じたことや考えたことを書く。 ・今日の学習を振り返る。	○写真や映像を見て、感じたことや考えたことを書きましょう。 ・津波はとても恐ろしいと思いました。くじけずに努力する心が大事だと分かりました。 ・募金やボランティアなど、わたしたちができることを考えていきたいです。 ○今日の学習を通して思った事を発表しましょう。	・被災者やボランティアの人々の気持ちを考え、話し合うことにより、協力することの大切さにふれさせたい。(ワークシート) ・生命の大切さを考える機会は少ないため、児童一人一人にじっくり考えさせたい。

6　評価

・東日本大震災によって人々が復興へ向けて、どのように努力し助け合ったのかを知り、自分たちにできることは何かを考えることができる。

5年 高学年副読本 P６～７	「もっこ」で弁当配達	中心価値 いきる ③{価値ある自分}	関連価値 いきる ⑤{やり抜く強さ}

1　目標

震災津波で大きな被害を受けた宮古市鍬ヶ崎地区で弁当配達を始めた松田さん姉妹を通して、どのような状況においても、自分の存在を認め、必要とされる存在であることについて考える。

2　学習内容

・松田さん姉妹の思い

・まわりから必要とされる存在としての自分

3　教科・領域との関連

私たちの道徳

公共のために役立つことを　　～社会のためにカをつくす～

社会に役立つ喜びを知って、公共のために尽くそうとする態度を養う。

4－(4)勤労・社会奉仕

4　関連資料等

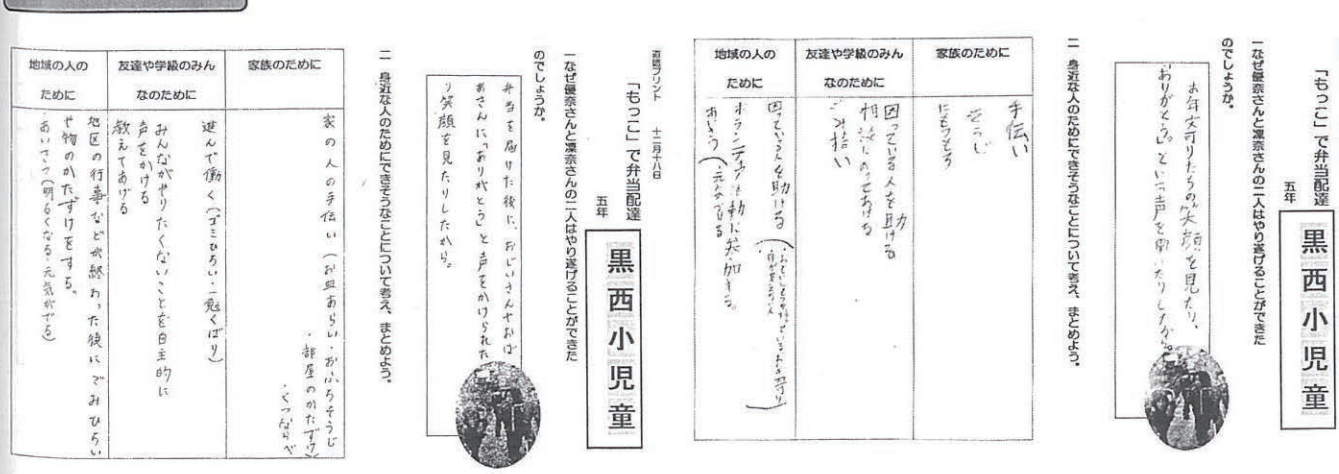
5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・宮古市鍬ヶ崎の震災前の様子と震災後の様子や避難所の様子について知る。	○東日本大震災の時、宮古市の人たちはどんな避難生活を送っていたでしょう。	・新聞記事、映像資料を活用し、活動の様子が児童にとってわかりやすくなるよう工夫する。
展開	・「『もっこ』で弁当配達」を読み、松田さん姉妹の活動を知る。 ・わたしたちの道徳に紹介されているボランティア活動について知る。	○松田さん姉妹はどうして弁当配達を１年間も続けられたのでしょう。 ・「ありがとう」と言われるのが励みになったから。 ○震災後のボランティア活動には、どのようなものがあったでしょう。	・挿絵を活用し、弁当を届けてもらった人、「ありがとう」と言われた時の姉妹の気持ちにも着目させながら展開する。 ・地域の中学生の活動の写真等も紹介して、具体的に活動内容を理解させる。
まとめ	・自分たちが身近な人のためにできるボランティア活動について考える。	○自分たちが身近な人のためにできる活動には、どんなものがありますか。 ・地域の清掃活動に参加する。	・身近な人のためであると同時に自分の自信にもつながることを確認し、意欲を持たせる。

6　評価

・他の人や地域社会に役立つことを考え、自分から進んで実践しようとする。

児童の学習シート



6年	「三陸鉄道のたたかい」	中心価値	関連価値
高学年副読本		かかわる	いきる
P４～５ P28～29	遠野に「まごころ」が集まった	⑪「ボランティア」	⑤「やり抜く強さ」

1　目標

・「遠野まごころネット」の活動を通して、他の人や地域社会に役立つことを考え、自分から進んで実践しようとする心情を育てる。

・三陸鉄道の被害とその復旧・復興に向けた人々の取り組みやさまざまな人々の支えで復旧・復興が成し遂げられたことを理解し、あきらめずにやり抜く強さの大切さについて考える。

2　学習内容

・三陸鉄道の歴史と地域住民とのかかわり
・三陸鉄道の被害状況と運転再開までの取り組み
・運転再開に向けて取り組んだ人たちとの思いと努力
・「遠野まごころネット」の活動
・ボランティアの意識とさまざまな活動

3　教科・領域との関連

道徳：「わたしたちの小さな駅」勤労社会奉仕
総合的な学習の時間：「わたしたちにできること」

4　関連資料等

・三陸鉄道ＨＰ　・遠野まごころネットＨＰ　・復興庁ＨＰ

5　展開

	学習内容・活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導入	・被災時の写真を見て感じたことを発表する。	○3枚の写真を見て感じたことを発表しましょう。 ・想像できない悲惨な写真だ。 ・お年寄りの叫び声が聞こえるようだ。	・写真の提示で、当時の悲惨な様子を理解させる。
展開	・「三陸鉄道のたたかい」について知る。 ・「遠野にまごころネットが集まった」の活動内容について知る。 ・私たちにできることは何かを考える。	○三陸鉄道は、地域の人たちにとってどのようなものだったのでしょう。 ・生活の足 ○なぜ、三陸鉄道の人たちは復旧を諦めなかったのですか。 ・みんなの足をいつまでも止めておくわけにはいかなかった。 ○まごころネットはどのような活動を行いましたか。 ・水や食料を届けたり、片付けをしたりしていた。 ・様々なグループができ活動した。 ○今日の学習で、私たちにできることは何か話し合いましょう。 ・地域のボランティア（ハウスクリーニング）に参加する。 ・募金活動をする。 ・鵜住居小学校へ「さくら基金」を実施する。	・人々の役に立つこと、人々に希望を与えたいという希望を与えたいという気持ちがあったことに気付かせる。 ・写真を活用し、活動の様子が児童にとってどういう事なのかを分からせる。 ・言葉だけでなく、具体的な活動内容を明らかにさせたい。
まとめ	・今日の学習から学んだことや自分の考えをまとめる。	○今日の学習で、学んだことや自分の考えをまとめましょう。 ・募金活動をする。ボランティア活動をする。 ・物を大切にする。（リサイクル） ・東日本大震災を忘れない、助け合う、あきらめない心をもつ。	・東日本大震災の復興に、私たちにできることは何かを、一人一人考えさせ、実行させる。

6　評価

・他の人や地域社会に役立つことを考え、自分から進んで実践しようとする。